

# 審判研修 道外派遣参加報告書

大会名 第43回 全国中学校バスケットボール大会	期間 2013年8月22日(木)～8月25日(日)
開催地 静岡県 浜松市・袋井市	会場 浜松アリーナ・小笠山総合運動公園など
参加者 田中 充	所属地区名 名寄地区
<b>講師</b> 3パーソンシステム講師 …玉木 彰治 氏(本部・富山AA)、田邊 真由美 氏(本部・兵庫AA)、福岡 敏徳 氏(本部・長崎AA)、 御手洗 亮 氏(本部・大分AA) レクチャー講師…御手洗 亮 氏(本部・大分AA)	
<b>審判会議、講師からの事前のレクチャー内容など</b> レクチャーでは御手洗氏より、自らの経験に基づき【大会に臨むにあたって】というレクチャーをして頂いた。 内容は、《フィジカルコンディショニング》、《メンタルコンディショニング》、《中学生ということに甘んじないこと》、 《熱い気持ちと冷静な判断》など。	
<b>実技研修、座学研修等の記録</b> A級については審判会議の前に【3パーソンシステム】の研修を行った。 高校生のモデルゲームを10分×2本、同じクルーで担当した。 全体研修の前に玉木彰治氏(本部・富山AA)より、いくつかポイントについてお話があった。 内容は、《リードとセンターのアイコンタクトを行う》、《トレイルのプレーの追いかかけ方》について。  クルーはR…二宮 隆二 氏(茨城A)、U1…高嶋 憲彰 氏(鳥取A)、U2…田中。 アドバイスは2本とも御手洗 亮氏(本部・大分AA) 御手洗氏からは、2本ともスムーズな運営に対して評価を頂いた。	
<b>実践実技1</b> 日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
2013年8月23日(金)	対戦カード 男子予選リーグF 相浦(長崎)50 - 65藤岡南(愛知)
主審 田中 充	相手審判 森原 隆 氏(広島 公認)
<b>ゲーム前のカンファレンス内容</b> 2人の視野の分担、3・4番エリアやリードが右に行った場面、オールコートデフェンスへの対応をそれぞれ確認した。 男子なのでドライブに対する受けをしっかりすること。また、ベンチのコーチの振る舞いに対する対応についても確認した。	
<b>ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 主任:福岡 敏徳 氏(本部・長崎 AA)</b> 主審としてしっかりとまとめられていた。良い感じで吹けていたのでは。 判定としては、難しい所から取り上げた物が3つあったので、もう少し良い位置で。 終盤に負けているチームが追い上げ始めた時、相手が判定できなかった物に対してカバーしていたが、もう少し早くカバーし始めても良かったと思う。	
<b>ゲーム感想</b> ゲームとしては、タイトで対応の早いディフェンスをしてくるチームとそれにアジャストするチームの対戦となった。 流れを止めることなくゲームをスムーズに進行することを心がけたがその部分については主任からも良い評価を頂いたと感じている。 ゲームの後半に触れ合いの質が変わったことは感じていたが、相手エリアで起こったことに対してどの場面でカバーに行くか、今後の材料となるゲームであった。	

実践実技2	
日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
2013年8月24日 (土)	対戦カード 女子決勝トーナメント1回戦 東海大翔洋(静岡)35 - 50就実(岡山)
主審 田中 充	相手審判 森田 将史 氏(長崎 A)
ゲーム前のカンファレンス内容	
<p>2人の視野の分担、3・4番エリアやリードが右に行った場面、オールコートデフェンスへの対応をそれぞれ確認した。</p> <p>2人でボクシングインを意識し、触れ合いを2人とも確認できないということが無いように確認。</p> <p>また、就実の大型プレイヤーに対する守り方、特に手の使い方については早い段階で基準を示すように心がけることとした。</p>	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 主任:吉橋 雅一 氏(本部・愛知 AA)	
<p>とてもスムーズに進められていて良かった。相手の見えないところのプレーに対しても積極的に動いて判定しに行っているのが良かった。2つほど、このゲームでは吹かなくても良い物があつたぐらいだと思う。</p>	
ゲーム感想	
<p>中学生の女子には、両サイドでオフボールのスクリーンがあつたり、ウィークサイドからオフボールのスクリーンを使ってゴールしたに飛び込むプレーを多用するチームで、2人の分担と協力がとても必要だった。ことあるごとに、相手審判と両チームのプレーの特徴を話し合いながらアジャストできるように心がけた。ハーフタイムでゴールネットが切れてしまい、交換するまでの時間を取ることもあったが、プレイヤー、審判ともに集中が途切れることはなかった。</p>	
実践実技3	
日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
2013年8月25日 (日)	対戦カード 男子準決勝 浜松学院(静岡)76 - 68実践学園(東京)
第2副審 田中 充	相手審判 主審 福岡 敏徳 氏(本部・長崎 AA) 第1副審 中村 浩仁 氏(青森 A)
ゲーム前のカンファレンス内容	
<p>メカニックの確認としては、リード主導のローテーション時にセンターがすぐ動くのではなく、トレイルの動きも確認してから動くこと。センター手動のローテーションの時にはリードが早く気づくこと。</p> <p>最終的には判定で勝負。メカニックにとらわれることなく1つ1つ見極めを。</p> <p>浜松学院のビッグセンターに対する守り方に対応すること。ダメな手の使い方については早めに判定を。</p>	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 主任:平林 達哉 氏(福島 A)・杉浦 元一 氏(東京 A)	
<p>3人でゲームをまとめいてたと思う。ただ、3人の分担の狭間で何か起こったときの対応をもう少しはっきりした方が良いと感じる。触れ合いはあるのだが、誰が見ているかはっきりしないため、ノーコールで判定しているのかどうか分かりにくい場面が時折見られる。</p>	
ゲーム感想	
<p>地元チームということもあり、会場は大変な盛り上がりを見せていた。お互いに持ち味を活かしてゲームが展開されており、簡単に流れを切ることができないゲームで、初日・2日目のゲームから比べると明らかにゲームレベルの違いを感じた。改めて、クルーで協力してゲームを運営することの大切さと感じたゲームだった。</p> <p>その中でまだまだ安定していない自分を感じることもあり、3パーソンのメカニックも含めて、まだまだ力不足と感じた。ただ、次に向けて自分の新たな方向性も見えたゲームであった。</p>	

## まとめ

昨年は公務で参加することができなかつた分、今年こそはと意欲を持って臨むことができました。前日の研修会から大会最終日まで良い緊張感を持って過ごすことができ、これまでの経験も活かしながら自分の出来ることや、普段道内で学んだ事をオンザコートで表現し、最終日の割り当てを勝ち取ることを目標としました。

結果として大会最終日に男子準決勝の割り当てをいただいたことは、自分にとって大きな自信となるとともに、これまで道内や地元地区でご指導いただいた方々のおかげと感謝する次第です。都道府県対抗ジュニアオールスターでも、決勝戦の割り当てを頂いていましたが、全国中学の雰囲気はまた違う物があり、この場面でしっかりとゲームを担当するにはまだまだ力不足ということも感じました。

今大会より最終日は準決勝からすべてスリーパーソンとなりました。北海道でも取り組んでいます。他ブロックの取り組みの状況などもリサーチできましたので、自分だけではなく北海道の仲間のためにもここで学んだことを還元できればと考えています。

最後になりましたが、今回もこのような機会を与えてくださった道協会並びに地区協会の皆様に感謝しつつ、この場を借りてお礼申し上げます。